

平成 28 年度自己評価シート(中間評価)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林秀則	全・定・通	ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	------	-------	-----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。					
①中高連携を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(体育祭・文化祭等)における生徒の交流を活性化させる。 ・部活動における交流(合同練習等)を積極的に取り入れる。 ・相互の教育相談(高校教員による中3生への進路相談, 中学校教員による高1生へのカウンセリング)を実施する。 ・相互の授業参観を実施する。 ・島内中学校への出前授業を毎週行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の茶道部が6月に実施した本校文化祭に参加した。 ・中学校と相互の教育相談を実施し、事後の生徒アンケートも評価が高い。 ・中学校には数学、英語が月曜日に授業を行っている。 	全 校
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島町幼小中連携プロジェクト」との連携のもと、既習事項と関連付けながら系統的な学習となるよう配慮し実施する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて、実施後の評価と課題の整理を行うとともに平成28年度から、年次進行で各学年1単位を付与し独立した科目として展開できるような計画を作成する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて、実施後の評価と課題の整理を行うとともに平成29年度から実施する「大崎上島学Ⅱ」と「大崎上島学Ⅲ」実施計画を作成する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓体験(1年)、海洋体験(1・2年)を実施した。 ・リサーチⅢ(3年)では「大崎上島学」を含め、グループで卒業研究を行っている。 ・今年度から1学年は、「大崎上島学」が始まり、年間指導計画をもとに進めることができている。 	教務部 リサーチ 担当者
③教育活動等について積極的に情報発信している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報誌を年間11回以上発行し、地域及び島内中学生等に配布する。 ・HPで本校の活動状況を発信する。 ・学校案内(パンフレット)を広域に配布する。 ・町広報の活用など、島内への情報発信の方法を工夫する。 ・町内放送の活用により、学校行事(文化祭、体育祭)の案内を発信する。 ・マスコミへの情報提供も含め、広域への情報発信の方法を工夫する。 ・近隣の高等専門学校と連携し、本校の情報発信を行う。 ・県外の生徒募集に関して、関係機関と連携し、計画的な広報活動を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・10月12日現在、学校情報誌(海星だより)を5号まで発行し、海星だより特別便を2回全戸配布した。 ・10月12日現在53回HPを更新した。 ・学校案内を島内中学校の全生徒、保護者及び教職員に進路説明会にて配布した。 ・町内放送を活用し、学校行事の案内を発信した。 ・新聞や放送局などマスコミに向け、情報発信した。 ・近隣にある高等専門学校と連携し、8月に4,800部の学校案内セットを全国に配布した。 ・県外からの生徒募集のため、今年度は県外での説明会を8回実施し、8月には学校見学ツアーを実施した。 	進路指 導部

【評価結果の分析】

①中高連携の推進

- ・文化祭は、中学校の茶道部が本校文化祭に参加した。体育祭は、平日開催となったため、島内にある中学校や特別支援学校の生徒に参加してもらうことができなかった。
- ・サッカー部、バレー部が合同練習や練習試合を行った。
- ・相互の教育相談は中学校と連携し本校高1生は5月に、中学校3年生は6月に実施することができた。生徒のアンケートによるとほとんどの生徒がこの教育相談は有意義であると答えた。
- ・相互の授業参観として6月の互見授業について中学校へ案内したが、中学校の学校行事と重なり参加がなかった。
- ・中学校への出前授業として、月曜日に数学、英語の授業を行っている。授業評価アンケートでは、昨年度より授業評価は向上した。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・昨年度に引き続き、和太鼓体験(1年)、海洋体験(1・2年)を実施した。生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は、「和太鼓体験」では94%、海洋体験「シーカヤック」では96%、「フィッシング」では50%であった。
- ・今年度から1学年は、「大崎上島学Ⅰ」が始まり、年間指導計画をもとに進めることができています。

③情報発信

- ・学校情報誌(海星だより)の発行は概ね計画通りに進んでおり、島内関係各所に配布できている。
- ・本校HPアップ回数は53回となり、年間目標の60回更新は達成できる見込みである。
- ・町内放送を活用し、学校行事(6月文化祭及び9月体育祭)の情報を発信した。文化祭では昨年を上回る来場者数があり、好評だった。また、体育祭は天候不良により日曜開催はできなかったが、平日でも多くの保護者に来ていただいた。
- ・島内の中学校では、5月に開催された進路説明会において、生徒全員及びその保護者に学校案内を配布することができた。8月には保護者を対象とした学校説明会を実施した。
- ・周辺6中学校及び県北2中学校に訪問し、中学3年生及び教職員に学校案内を配布した。これにより、周辺中学校から学校説明会の依頼があり、学校紹介を行った。また、別の中学校では、学校説明をするためのブースを2日間放課後に設置し、本校に興味を持った生徒が見学した。
- ・県外からの生徒募集については、
 - ア 県外からの生徒募集は、10月12日現在までにNPO法人との連携を含めて東京で計8回の説明会を実施した。回数を重ねるごとに本校への興味を持つ保護者からの問い合わせが増えてきている。
 - イ 民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の8中学校を修学旅行前に訪問し、3年生及び教職員に本校の学校案内を配布した。その中で、本校との交流に関心のある中学校や本校への進学を希望する中学生を発掘することができ、大きな成果を挙げた。
 - ウ 8月9日、10日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し、8組14名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。この参加者のうち3組は10月上旬に再度来島し、日常の学校生活や寮についても見学された。また生徒による学校紹介、案内が好評であった。
 - エ 新聞掲載やテレビ放送等、各マスコミに向けて情報提供し、記事として掲載された結果、県外からの問い合わせや学校見学ツアー参加者も増えた。また、複数の雑誌に「島の仕事図鑑」などの記事を掲載していただいた。
 - オ 近隣の高等専門学校と協働し、関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに学校案内を配布することができた。

【今後の改善方策】

①中高連携の推進

- ・和太鼓部の演奏を11月12日(土)に開催される中学校の文化祭で披露する。中学生にとって大崎海星高校が身近な存在と感ぜられるように取組を進める。
- ・相互の教育相談は、島内中学校と連携して継続する。
- ・大崎上島中学校への出前授業は、現在数学と英語であるが、他教科も中学校の授業を受け持つことができるかどうかを検討する。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・平成29年度から実施する「大崎上島学Ⅱ」の実施計画は、現在計画中である。
- ・リサーチⅢ(3年)では3グループが「大崎上島学」について卒業研究を行っている。その研究成果を役場への提言として、1月下旬に意見交換会を開催する予定である。

③情報発信

- ・学校情報誌の作成やHP更新について、学校全体で業務分担できるよう検討する。
- ・今年度、学校案内を刷新して島内及び島外でも配布したが、本校への興味を引き付ける良い効果が出ている。平成29年度中には次年度以降の学校案内を作成する必要がある。また、部数は、1万3千部の学校案内の作成が必要である。
- ・学校行事(6月文化祭及び9月体育祭)の情報発信は、町内放送を利用やパンフレット配布などの取組を今後も継続する。また、町広報に折込チラシとして配布する方法も検討する。
- ・本校の魅力を全国に伝えるには、マスコミへの情報提供は効果が高い。そのためにもいろいろな会合に参加し、たくさんの方とつながることが肝要である。全国版のテレビ放送についても、今後も依頼を投げかけていく。
- ・今年度初めて近隣の高等専門学校の学校案内に同封させていただき、本校の学校案内を関東地方の一部及び西日本の中学校、教育委員会及び塾に情報発信することができた。高等専門学校の担当者との事前の打ち合わせを複数回行う必要がある。
- ・県外からの生徒募集に向けて、
 - ア 今年度は東京都での説明会を8回実施し、さらに10月22日、11月19日の開催を計画している。来年度についても今年度と同様に説明会を実施する。
 - イ 今年度初めて「大崎海星高校見学ツアー」を開催できたが、生徒会執行部の改選期に準備にかかるため、非常に準備が厳しい。本校のボランティア・バンクの活用など、多くの生徒が参加できるように検討する。
 - ウ 県外から来校した(予定を含む)生徒・保護者が9組あった。今後は入試情報の提供など受検に向けて連携を密にする。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。				
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業において、「目標の板書」「振り返り」「流れの明示」を実施する。 個別の指導計画に基づいた実践を行い、学期毎に評価・改善を図る。 個別の教育支援計画に基づき、保護者や保健、福祉、医療等の教育関係機関と連携して支援を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「本時の目標」の板書、「振り返り」の時間等、学校評価アンケートにおける肯定的評価は90%である。 一学期終了時に個別の指導計画について評価を実施し、二学期開始前に校内委員会を開催して改善点を協議し、職員会議で全教職員に周知した。 三原特別支援学校より講師を派遣していただき「発達障害児の理解・支援」研修を実施した。 	教務部 各教科
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングについて研究し、授業へ積極的に導入する。 ICTを積極的に導入する。 ICEモデルの研究を通して、ICEモデルを活用した学習指導案を作成し、実践する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 5月の互見授業週間では全教員がICEモデルを活用した学習指導案を作成し、授業研究を行った。 	教務部 各教科

【評価結果の分析】

- 学校評価アンケートでは、「本時の目標が板書されている」の肯定的評価は92%、「振り返りの時間がある」の肯定的評価は87%、「学校の授業は、私にとって分かりやすい」の項目では、肯定的評価が、76%であった。昨年度とほぼ同じ状況である。
- 「学校の授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面があると思う」の肯定的評価は、60%であった。昨年度より、やや下回っている。

【今後の改善方策】

- 「本時の目標、振り返りの内容と方法、言語活動の具体的内容」、「生徒指導の三機能を生かす」「ICEモデルの活用」等を盛り込んだ授業を充実させるとともに、生徒相互に、学び合い、話し合いの中から課題を発見して解決していく授業を実施する。また互見授業において、積極的に授業見学をすることにより、指導力の向上や授業の改善を図る。
- 授業において、アクティブ・ラーニングを充実させ、生徒が能動的に課題を発見し解決しようとする力を養う。研修会において、大崎海星高校の生徒の実態に適した授業モデルを話し合い、研究授業を実施することにより本校独自の授業モデルを確立させる。
- 2学期中間考査から活用問題を出題する。また研修会において、出題した活用問題が「身に付けたことを用いて考える力」を養う問題となっているか検討する。
- 「いつでも、数分でも」相互に授業参観できるようにする。いつでも参観できることにより、授業者には授業改善が促進される。見学者は授業間での違いや生徒の変化を学ぶことができる。
- 生徒の学力向上及び進路実現に向けて、学校の授業や指導を工夫し、生徒に主体的に学ぶ姿勢をつくっていく必要がある。そのためにはアクティブ・ラーニング型の授業や生徒に授業評価のためのルーブリックを提示して授業に臨ませるなど新しい取り組みを入れていく必要がある。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。				
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。	・進路指導計画(大崎海星高校ロードマップ)に基づき、計画的・組織的な進路指導を行う。 ・国語・数学・英語を中心とした年間指導計画を作成し、生徒・保護者に周知し、学校と公営塾が連携して指導する。 ・進路検討会議を実施し、全教職員が全生徒の指導方針を共有する。 ・公営塾との連携を密にし、学校と公営塾が一体となった指導体制を確立する。	B	・生徒個人に対する年間指導計画を作成し、計画に基づいて組織的な指導を行っている。 ・進路検討会議を7月に実施し、生徒の指導について、教職員で確認した。 ・公営塾ミーティングを原則週1回設けて、これまでに16回実施した。	進路指導部 公営塾 担当者

【評価結果の分析】

- ・ロードマップを作成し、全生徒及び全教職員に配布した。またHR教室にも掲示した。
- ・生徒の年間指導計画(個別のカリキュラム)を作成した。しかしながらどの教科も一部の生徒しか進んでいない。公営塾と協力し、指導しているが順調ではない。
- ・AO推薦講座を4月に開始し、これまでに27回実施した。5名で始め、10月の最終回までに4名が継続的に参加した。そのうち1名は国公立大学のAO入試受験、他1名は有名私立大学のAO入試を受験した。講座に継続して参加し、課題をクリアしている生徒は、探究活動や論文作成を通して論理的思考力が身に付き、面接でも自分の意見を発信できるようになった。
- ・公営塾ミーティングは原則週1回金曜日放課後16:00から開いた。今年度は学校からは管理職2名、担任3名、国語、数学、英語の教科担当者が出席している。

【今後の改善方策】

- ・ロードマップに基づいた計画的・組織的な進路指導ができるように、継続的に取組状況の進捗管理を行う必要がある。
- ・生徒の個別のカリキュラム通りにすすめるために進捗管理を行う。また生徒が自主的にカリキュラムを進められるように、公営塾スタッフとともに支援や進捗管理を行う。
- ・進路検討会議を7月に実施し、生徒の進路希望や今後の方向性について教員で確認した。しかし、3年生でもその後進路変更するものが多い。そのため、生徒には2年次から進路選択や進路について検討する時間を設け、さらに自分に最適の進路選択となっているかを考えさせる必要がある。
- ・LHR等で進路指導主体の時間を設け、今年度のリサーチⅡのインターンシップ後の総合的な学習の時間及び来年度のLHR計画には進路探求の時間を計画する。
- ・公営塾とのミーティングは原則週1回開催している。また、公営塾で生徒が学んでいるときに教室を訪れる教職員が少ない。もっと塾との協働体制を深めていく必要がある。
- ・AO推薦講座は週1回月曜日に実施した。時事問題や各分野での基礎知識が不足しているため、志望理由や小論文が書けない生徒がいる。今後はAO推薦講座だけでなく、授業やLHRでも指導する必要がある。また今年度後半は2年生のAO推薦講座を始めていく。
- ・今年度は就職に関する模試を年間行事計画に盛り込み実施した。就職模試は受験者が0名であったが、公務員模試は複数回受験した。就職試験対策の問題集を設定し、早くから試験対策を実施する必要がある。また作文指導や小論文指導を早期から取り入れ、文章を書くことに慣れさせる必要がある。
- ・3年生の面接指導について、受験までに担任、進路指導部、他の教員及び管理職との面接練習を行い、試験を迎えられるように計画を立てる必要がある。また面接指導においても、海星高校スタイルを確立し、全ての教職員が同じように生徒に指導できる体制づくりも必要である。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。				
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、生徒の自己指導能力を高める取組を実践する。 ・SHR、授業におけるベルスタートを徹底させる。 ・日々の遅刻結果を生徒に示すとともに、遅刻の多い生徒に対する指導を強化する。 ・遅刻の減少に向けて、「反省文を書かせる」、「保護者を召喚する」などの厳しい指導を行う。 ・生徒指導部による登校指導を、全教職員でかかわられるように計画的に取り組む。 ・生徒会を中心とした挨拶運動など主体的な活動を促していく。 ・正しい制服の着用の仕方や違反について、年度当初に全校で確認をし、生徒も教職員も共通理解を図り学校全体で指導していく。全教職員で月間目標を重点的に指導する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・SHR、授業におけるベルスタートは、おおむね達成できているが意識が低い生徒も少数いる。 ・遅刻指導の強化により遅刻者数は、昨年度の同時期に比べると減少傾向にある。 ・校内外での正しい制服の着用については、継続的な指導を行っている。 	生徒指導部
②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や日常生活におけるマナー指導を徹底する。 ・地域や同窓会の社会人を講師とした講演会を複数回行う。 ・地域と協働した校外清掃を実施する。 ・ボランティア・バンクの活動を通して、奉仕の精神を涵養させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人講演会を学期に複数回実施できている。 ・大崎上島にある小学校・中学校と協働して通学路の清掃活動を行う大崎上島クリーン大作戦は、雨天のため実施することができなかった。 ・ボランティア・バンクに登録している生徒を中心に地域のボランティア活動へ積極的に参加している。 	生徒指導部

【評価結果の分析】

- ・ベルスタートは教室の移動があるときに守れていない生徒がいる。また、ベルスタートに対して意識の低い生徒が少数いる。学校全体として足並みをそろえて指導をしたい。
- ・遅刻者については、「反省文指導」や「保護者召喚」など、昨年度よりも指導内容を強化したことにより減少傾向にある。ただ、時間ぎりぎりに登校する生徒が変わらずに多いので、時間にゆとりをもって行動するよう指導をしていきたい。
- ・制服の着用について、身だしなみ指導の回数を増やし、継続的に指導を続けており効果が上がっている。一部の課題のある生徒に対しては、粘り強く指導する必要がある。

【今後の改善方策】

- ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めるために、ベルスタートについては、生徒集会を通じて職員・生徒で再確認・再認識を図り徹底する。また、遅刻についても0を目指して取り組みを継続する。
- ・生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせ、豊かな心を育てていくために、毎日の登校指導やPTA挨拶運動などで挨拶が気持ちよくできるように指導をする。学校内だけでなく、校外でも気持ちの良いあいさつをしていくように声かけをする。また、学校内外での生活の仕方(行動)・服装・挨拶等の指導を継続的に行う。
- ・ボランティア・バンクの活動を活発にし、生徒が主体的に行動できるように指導していく。

平成28年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

[1] 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

- ・文化祭は、中学校の茶道部が本校文化祭に参加した。体育祭は、平日開催となったため、島内にある中学校や特別支援学校の生徒に参加してもらうことができなかった。
- ・サッカー部、バレー部が合同練習や練習試合を行った。
- ・相互の教育相談は中学校と連携し本校高1生は5月に、中学校3年生は6月に実施することができた。生徒のアンケートによるとほとんどの生徒がこの教育相談は有意義であると答えた。
- ・相互の授業参観として6月の互見授業について中学校へ案内したが、中学校の学校行事と重なり参加がなかった。
- ・中学校への出前授業として、月曜日に数学、英語の授業を行っている。授業評価アンケートでは、昨年度より授業評価は向上した。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・昨年度に引き続き、和太鼓体験(1年)、海洋体験(1・2年)を実施した。生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は、「和太鼓体験」では94%、海洋体験「シーカヤック」では96%、「フィッシング」では50%であった。
- ・今年度から1学年は、「大崎上島学Ⅰ」が始まり、年間指導計画をもとに進めることができています。

③情報発信

- ・学校情報誌(海星だより)の発行は概ね計画通りに進んでおり、島内関係各所に配布できている。
- ・本校HPアップ回数は53回となり、年間目標の60回更新は達成できる見込みである。
- ・町内放送を活用し、学校行事(6月文化祭及び9月体育祭)の情報を発信した。文化祭では昨年を上回る来場者数があり、好評だった。また、体育祭は天候不良により日曜開催はできなかったが、平日でも多くの保護者に来ていただいた。
- ・島内の中学校では、5月に開催された進路説明会において、生徒全員及びその保護者に学校案内を配布することができた。8月には保護者を対象とした学校説明会を実施した。
- ・周辺6中学校及び県北2中学校に訪問し、中学3年生及び教職員に学校案内を配布した。これにより、周辺中学校から学校説明会の依頼があり、学校紹介を行った。また、別の中学校では、学校説明をするためのブースを2日間放課後に設置し、本校に興味を持った生徒が見学した。
- ・県外からの生徒募集については、
 - ア 県外からの生徒募集は、10月12日現在までにNPO法人との連携を含めて東京で計8回の説明会を実施した。回数を重ねるごとに本校への興味を持つ保護者からの問い合わせが増えてきている。
 - イ 民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の8中学校を修学旅行前に訪問し、3年生及び教職員に本校の学校案内を配布した。その中で、本校との交流に関心のある中学校や本校への進学を希望する中学生を発掘することができ、大きな成果を挙げた。
 - ウ 8月9日、10日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し、8組14名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。この参加者のうち3組は10月上旬に再度来島し、日常の学校生活や寮についても見学された。また生徒による学校紹介、案内が好評であった。
 - エ 新聞掲載やテレビ放送等、各マスコミに向けて情報提供し、記事として掲載された結果、県外からの問い合わせや学校見学ツアー参加者も増えた。また、複数の雑誌に「島の仕事図鑑」などの記事を掲載していただいた。
 - オ 近隣の高等専門学校と協働し、関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに学校案内を配布することができた。

[2] 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

- ・学校評価アンケートでは、「本時の目標が板書されている」の肯定的評価は92%、「振り返りの時間がある」の肯定的評価は87%、「学校の授業は、私にとって分かりやすい」の項目では、肯定的評価が、76%であった。昨年度とほぼ同じ状況である。
- ・「学校の授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面があると思う」の肯定的評価は、60%であった。昨年度より、やや下回っている。

[3] きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・ロードマップを作成し、全生徒及び全教職員に配布した。またHR教室にも掲示した。
- ・生徒の年間指導計画(個別のカリキュラム)を作成した。しかしながらどの教科も一部の生徒しか進んでいない。公営塾と協力し、指導しているが順調ではない。
- ・AO推薦講座を4月に開始し、これまでに27回実施した。5名で始め、10月の最終回までに4名が継続的に参加した。そのうち1名は国公立大

学のAO入試受験、他1名は有名私立大学のAO入試を受験した。講座に継続して参加し、課題をクリアしている生徒は、探究活動や論文作成を通して論理的思考力が身に付き、面接でも自分の意見を発信できるようになった。

・公営塾ミーティングは原則週1回金曜日放課後16:00から開いた。今年度は学校からは管理職2名、担任3名、国語、数学、英語の教科担当者が出席している。

[4]生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

・ベルスタートは教室の移動があるときに守れていない生徒がいる。また、ベルスタートに対して意識の低い生徒が少数いる。学校全体として足並みをそろえて指導をしたい。

・遅刻者については、「反省文指導」や「保護者召喚」など、昨年度よりも指導内容を強化したことにより減少傾向にある。ただ、時間ぎりぎりに登校する生徒が変わらずに多いので、時間にゆとりをもって行動するよう指導をしていきたい。

・制服の着用について、身だしなみ指導の回数を増やし、継続的に指導を続けており効果が上がっている。一部の課題のある生徒に対しては、粘り強く指導する必要がある。

2 今後の改善方策

[1]学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

・和太鼓部の演奏を11月12日(土)に開催される中学校の文化祭で披露する。中学生にとって大崎海星高校が身近な存在と感じられるように取組を進める。

・相互の教育相談は、島内中学校と連携して継続する。

・大崎上島中学校への出前授業は、現在数学と英語であるが、他教科も中学校の授業を受け持つことができるかどうか検討する。

②地域学習「大崎上島学」の実施

・平成29年度から実施する「大崎上島学Ⅱ」の実施計画は、現在計画中である。

・リサーチⅢ(3年)では3グループが「大崎上島学」について卒業研究を行っている。その研究成果を役場への提言として、1月下旬に意見交換会を開催する予定である。

③情報発信

・学校情報誌の作成やHP更新について、学校全体で業務分担できるよう検討する。

・今年度、学校案内を刷新して島内及び島外でも配布したが、本校への興味を引き付ける良い効果が出ている。平成29年度中には次年度以降の学校案内を作成する必要がある。また、部数は、1万3千部の学校案内の作成が必要である。

・学校行事(6月文化祭及び9月体育祭)の情報発信は、町内放送を利用やパンフレット配布などの取組を今後も継続する。また、町広報に折込チラシとして配布する方法も検討する。

・本校の魅力在全国に伝えるには、マスコミへの情報提供は効果が高い。そのためにもいろいろな会合に参加し、たくさんの方とつながることが肝要である。全国版のテレビ放送についても、今後も依頼を投げかけていく。

・今年度初めて近隣の高等専門学校の学校案内に同封させていただき、本校の学校案内を関東地方の一部及び西日本の中学校、教育委員会及び塾に情報発信することができた。高等専門学校の担当者と事前の打ち合わせを複数回行う必要がある。

・県外からの生徒募集に向けて、

ア 今年度は東京都での説明会を8回実施し、さらに10月22日、11月19日の開催を計画している。来年度についても今年度と同様に説明会を実施する。

イ 今年度初めて「大崎海星高校見学ツアー」を開催できたが、生徒会執行部の改選期に準備にかかるため、非常に準備が厳しい。本校のボランティア・バンクの活用など、多くの生徒が参加できるように検討する。

ウ 県外から来校した(予定を含む)生徒・保護者が9組あった。今後は入試情報の提供など受検に向けて連携を密にする。

[2]特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・「本時の目標、振り返りの内容と方法、言語活動の具体的内容」、「生徒指導の三機能を生かす」「ICEモデルの活用」等を盛り込んだ授業を充実させるとともに、生徒相互に、学び合い、話し合いの中から課題を発見して解決していく授業を実施する。また互見授業において、積極的に授業見学をすることにより、指導力の向上や授業の改善を図る。

・授業において、アクティブ・ラーニングを充実させ、生徒が能動的に課題を発見し解決しようとする力を養う。研修会において、大崎海星高校の生徒の実態に適した授業モデルを話し合い、研究授業を実施することにより本校独自の授業モデルを確立させる。

・2学期中間考査から活用問題を出題する。また研修会において、出題した活用問題が「身に付けたことを用いて考える力」を養う問題となっているか検討する。

・「いつでも、数分でも」相互に授業参観できるようにする。いつでも参観できることにより、授業者には授業改善が促進される。見学者は授業間での違いや生徒の変化を学ぶことができる。

・生徒の学力向上及び進路実現に向けて、学校の授業や指導を工夫し、生徒に主体的に学ぶ姿勢をつくっていく必要がある。そのためにはアクティブ・ラーニング型の授業や生徒に授業評価のためのルーブリックを提示して授業に臨ませるなど新しい取り組みを入れていく必要がある。

[3]きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

・ロードマップに基づいた計画的・組織的な進路指導ができるように、継続的に取組状況の進捗管理を行う必要がある。

・生徒の個別のカリキュラム通りにすすめるために進捗管理を行う。また生徒が自主的にカリキュラムを進められるように、公営塾スタッフとともに支援や進捗管理を行う。

・進路検討会議を7月に実施し、生徒の進路希望や今後の方向性について教員で確認した。しかし、3年生でもその後進路変更するものが多い。そのため、生徒には2年次から進路選択や進路について検討する時間を設け、さらに自分に最適の進路選択となっているかを考えさせる必要がある。

・LHR等で進路指導主体の時間を設け、今年度のリサーチⅡのインターンシップ後の総合的な学習の時間及び来年度のLHR計画には進路探求の時間を計画する。

・公営塾とのミーティングは原則週1回開催している。また、公営塾で生徒が学んでいるときに教室を訪れる教職員が少ない。もっと塾との協働体制を深めていく必要がある。

・AO推薦講座は週1回月曜日に実施した。時事問題や各分野での基礎知識が不足しているため、志望理由や小論文が書けない生徒がいる。今後はAO推薦講座だけでなく、授業やLHRでも指導する必要がある。また今年度後半は2年生のAO推薦講座を始めていく。

・今年度は就職に関する模試を年間行事計画に盛り込み実施した。就職模試は受験者が0名であったが、公務員模試は複数回受験した。就職試験対策の問題集を設定し、早くから試験対策を実施する必要がある。また作文指導や小論文指導を早期から取り入れ、文章を書くことに慣れさせる必要がある。

・3年生の面接指導について、受験までに担任、進路指導部、他の教員及び管理職との面接練習を行い、試験を迎えられるように計画を立てる必要がある。また面接指導においても、海星高校スタイルを確立し、全ての教職員が同じように生徒に指導できる体制づくりも必要である。

[4]生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

・基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めるために、ベルスタートについては、生徒集会を通じて職員・生徒で再確認・再認識を図り徹底する。また、遅刻についても0を目指して取り組みを継続する。

・生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせ、豊かな心を育ていくために、毎日の登校指導やPTA挨拶運動などで挨拶が気持ちよくできるように指導をする。学校内だけでなく、校外でも気持ちの良いあいさつをしていくように声かけをする。また、学校内外での生活の仕方(行動)・服装・挨拶等の指導を継続的に行う。

・ボランティア・バンクの活動を活発にし、生徒が主体的に行動できるように指導していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

・中学校と緊密な連携をとり、中高連携を今後とも継続していく。

・今年度全国募集の取組を一定程度確立することができた。本校への進学希望者が増加するように、学校の魅力化の取組をさらにすすめる。

・授業改善では、研修会において、大崎海星高校の生徒の実態に適した「主体的学び」の授業モデルを検討する。「いつでも、数分でも」相互に授業参観することで、授業力の向上を図る。

・就職希望者全員の内定に向けて、生徒・保護者と丁寧話し合いながら実現させる。

・島内の小学校・中学校と連携し、学校外でも積極的に挨拶ができるように指導する。

平成 28 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 28 年 10 月 26 日

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力化、授業づくり、進路指導等、学校教育の充実を図り生徒一人ひとりに夢や希望を実現させる力を付けようとしていることが明確に分かる。 ・適切な目標、指導、計画等になっており、意欲がうかがえる。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標に対する達成度や現在の状況が具体的に示されている。学校が明確な目標に向かって組織的に取り組んでいることが分かる。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、組織的に目標達成に向けて、適切に取り組んでいる。 ・各目標に対して、計画的・組織的な取組が具体的に示されている。生徒指導面が懸念事項ではあるが、少しずつ改善されている。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に評価がされており、次への課題も明らかにしている。 ・適切に分析がなされている。分析の欄を【成果】【課題】と分類するほうが分かりやすい。それらに対する改善方策も分かりやすくなる。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なものが示されていて、改善方策も適切である。 ・「継続指導」の項目について取組方法が適切かどうかを分析することも加えてはどうか。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組の成果が表れている。これからも魅力ある学校づくりに期待する。 ・学校の魅力化のための体制づくりが順調に行われ、成果が表れていることが分かる。今後も地域・家庭と連携して目標達成に向けて取組を充実させていくことを望む。 ・昨年に引き続きよく頑張っている。大崎海星高校の魅力化や大崎上島学など、協力できる場所があれば、一緒に盛り上げていきたい。